



2019年2月期（23期）
第1四半期決算資料

株式会社ダイセキ環境ソリューション
(証券コード：1712)

2019年2月期第1四半期損益（連結）

(単位：百万円)	18/2期 1 Q		19/2期 1 Q		
	実績	売上高比	実績	売上高比	前期比
売上高	3,983	100.0%	3,331	100.0%	83.6%
売上原価	3,301	82.8%	2,708	81.2%	82.0%
売上総利益	682	17.1%	623	18.7%	91.2%
販管費	338	8.4%	350	10.5%	103.5%
営業利益	344	8.6%	273	8.1%	79.2%
営業外損益	20	0.5%	△9	△0.2%	－%
経常利益	364	9.1%	263	7.9%	72.3%
特別損益	－	－%	－	－%	－
非支配株主に帰属する 当期純利益	21	0.5%	27	0.8%	130.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	251	6.3%	164	4.9%	65.4%
E P S (円)	15.01	－	9.80	－	65.2%

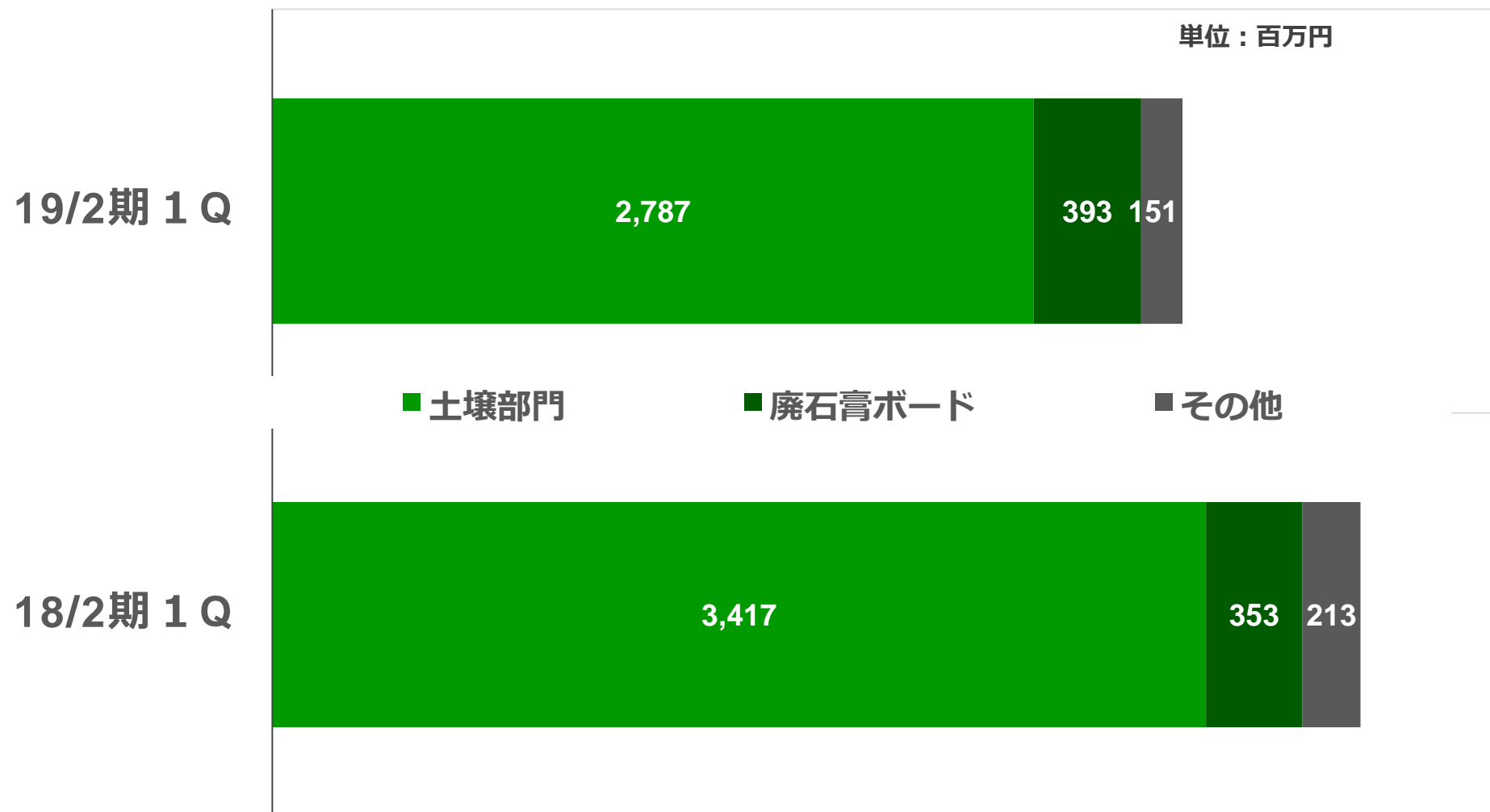
2019年2月期第1四半期セグメント別実績（連結）

(単位：百万円)	18/2期 1 Q			19/2期 1 Q			
	売上実績		セグメント 利益	売上実績			セグメント 利益
	金額	構成比		金額	構成比	前年比	
連結計上額	3,983	100.0%	344	3,331	100.0%	83.6%	273
土壌汚染調査 ・処理事業	3,417	85.7%	445	2,787	83.6%	81.5%	341
廃石膏ボード リサイクル事業	354	8.8%	51	395	11.8%	111.6%	84
その他	265	6.6%	38	200	6.0%	75.5%	17
セグメント間 調整額	△53	△1.3%	△190	△51	△1.5%	96.5%	△170

※その他：リサイクル事業、環境分析事業、バイオディーゼル燃料事業、P C B 事業等

※連結計上額のセグメント利益は調整（全社費用等配賦不能費用の控除）を行い、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

事業別売上実績



※事業別売上実績は、セグメント別の外部売上高に基づいており、その合計は連結損益計算書の売上高と一致しております。

部門別売上高 = 過去実績 =

(単位：百万円)	名古屋	東京	関西	東北	その他	GAC	GAK
2017年2月期1Q	1,444	1,592	492	168	127	200	126
2Q	977	1,071	762	52	112	177	126
3Q	1,012	975	964	11	244	200	141
4Q	1,010	795	774	25	445	205	145
2018年2月期1Q	1,696	1,130	586	4	213	226	128
2Q	1,098	1,220	570	20	212	234	128
3Q	861	910	399	16	280	254	138
4Q	752	2,353	831	82	209	245	127
2019年2月期1Q	800	957	977	53	151	253	140
2Q							
3Q							
4Q							

部門別売上高 = 当期予算・実績 =

(単位：百万円)	名古屋	東京	関西	東北	その他	GAC	GAK	連結売上	連結経常
2019年2月期1Q (予)	1,061	971	746	29	139	260	138	3,344	355
2Q (予)	1,161	2,531	592	16	141	254	139	4,834	482
3Q (予)	1,204	917	593	17	139	286	148	3,304	284
4Q (予)	1,117	886	590	18	522	260	135	3,528	348
2019年2月期計 (予)	4,543	5,305	2,521	80	941	1,060	560	15,010	1,470
2019年2月期1Q (実)	800	957	977	53	151	253	140	3,331	263
予算比 (%)	75	98	130	182	108	97	101	99	74
2Q (実)									
予算比 (%)									
3Q (実)									
予算比 (%)									
4Q (実)									
予算比 (%)									

※予算（上段）は2018年4月5日に公表した業績予想に基づいております。

2019年2月期の重点課題

● 土壌汚染調査・処理事業

- 活性化する首都圏市場からの受注を、全社経営資源（リサイクルセンター、技術スタッフ等）活用により最大化
- 名古屋・東京・関西・東北事業部間の連携による、弥富リサイクルセンターの稼働率向上（2018年2月期 50%弱を、2019年2月期 80%以上に）
- 大規模インフラ（鉄道・道路トンネル等）工事案件の取り込み
- 当社の強み（調査工事・川上営業・コンサル）を生かした営業強化
- 継続中のブラウンフィールド再生事業完遂と、新規案件の獲得

2019年2月期の重点課題

● 廃石膏ボードリサイクル事業

- 固化材事業での原料確保、販売拡大、新商品開発による事業拡大
- 中部・中国・九州地区商圈拡大による廃石膏ボード処理数量の増大
- 更なる処理能力拡大に向けた設備増強計画の検討

● その他（バイオディーゼル燃料およびPCB事業等）

- 資源循環事業部発足による、バイオディーゼル燃料事業、PCB事業およびリサイクル事業のシナジー獲得、効率化追求
- 他社とのアライアンスによる新規事業の検討

2019年2月期第1四半期の概況

● 土壌汚染調査・処理事業

- ・ 処理量は前期並みを確保、洗浄については増加傾向。
- ・ 一方、長期大型案件の下支え無く、受注単価低下により売上高目標未達。
- ・ ブラウンフィールド再生事業の土地引渡は第2四半期予定。
- ・ 弥富リサイクルセンターの稼働率は上昇傾向であるが、収益改善は目標に届かず。
- ・ 設備投資計画は、慎重かつ着実に進行。

2019年2月期第1四半期の概況

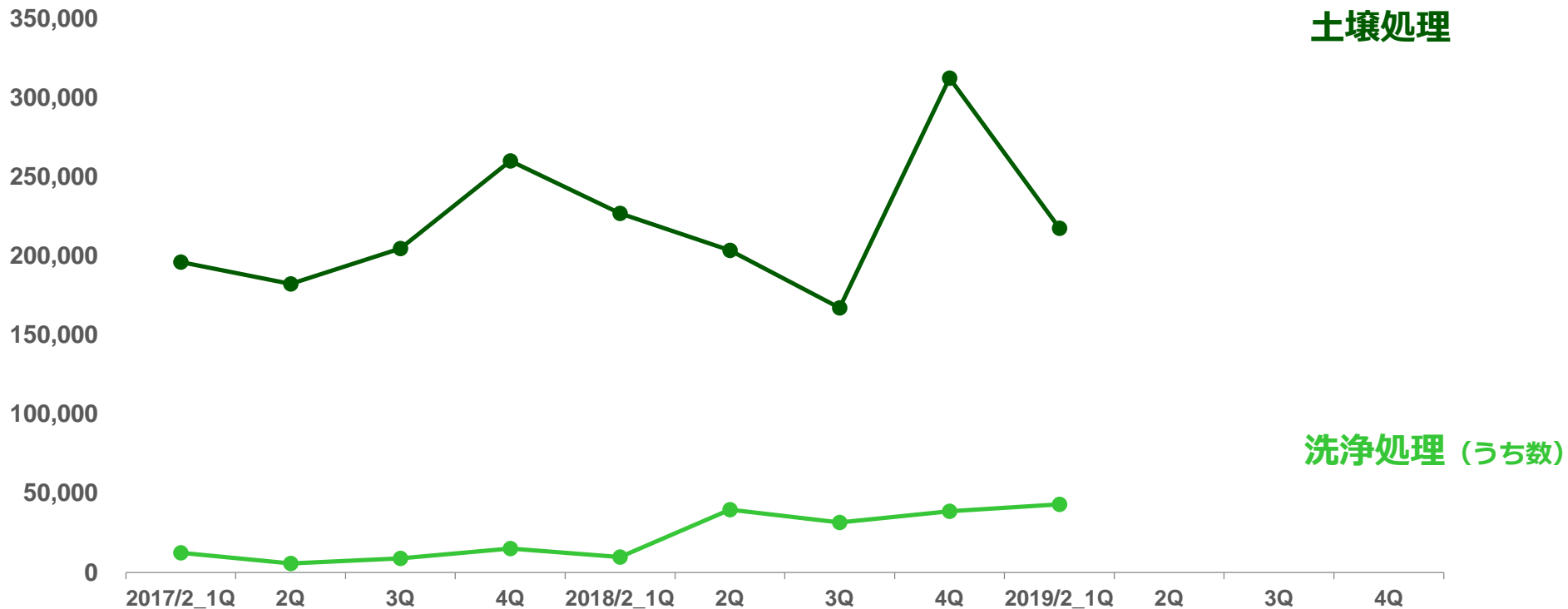
● 廃石膏ボードリサイクル事業

- ・ 中部・中国・九州地区ともに、廃石膏ボード処理量が引き続き順調に増加。
- ・ 固化材販売は、営業強化が実り増加傾向。

● その他（バイオディーゼル燃料およびPCB事業等）

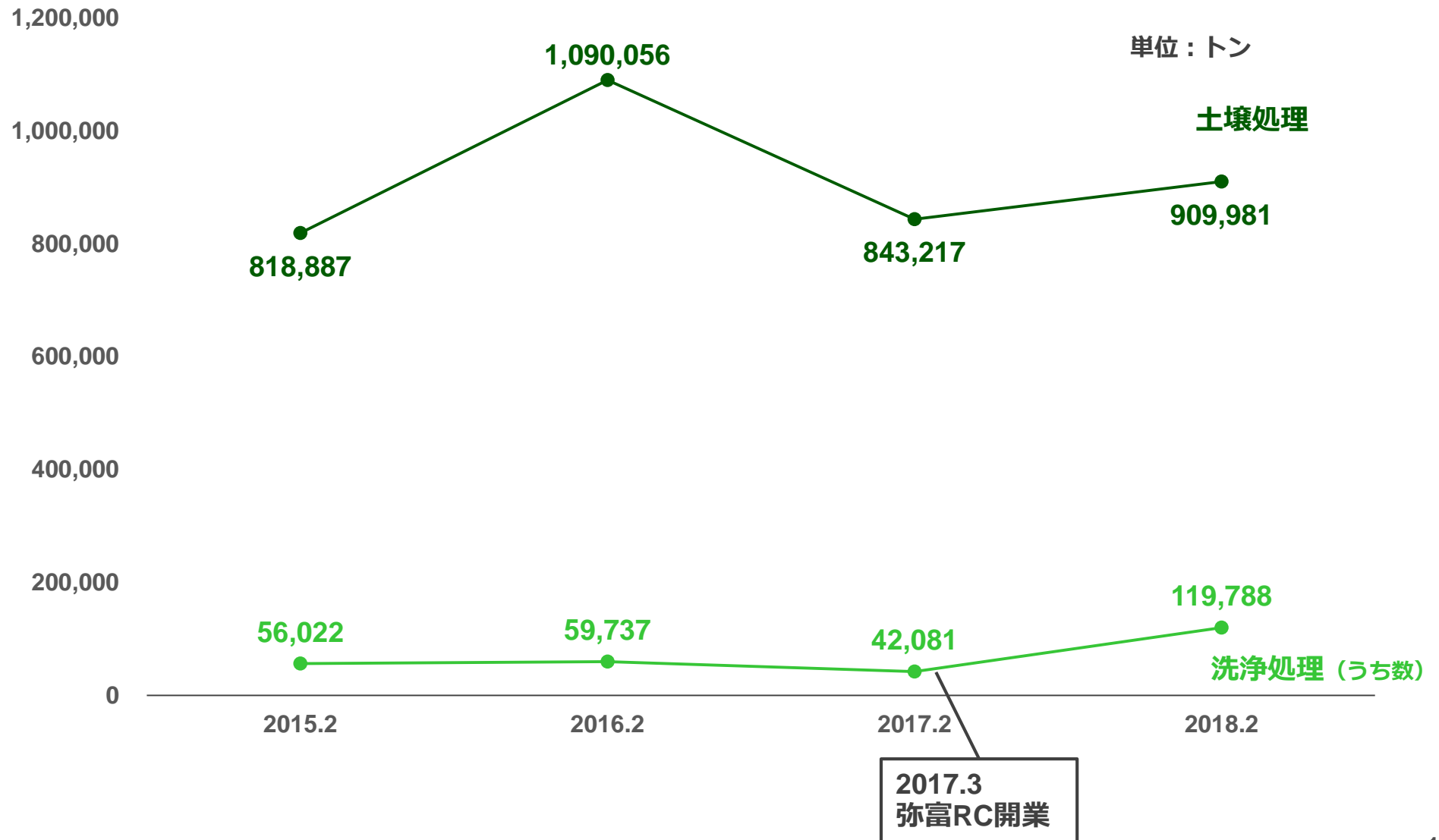
- ・ 前年度の一般廃棄物処理実績の減があるものの、PCB事業が牽引。

土壌処理数量の推移 = 四半期 =



(単位：t)	2017/ 1Q	2Q	3Q	4Q	2018/ 1Q	2Q	3Q	4Q	2019/ 1Q	2Q	3Q	4Q
土壌処理	196,187	182,296	204,695	260,039	226,968	203,540	167,204	312,269	217,403			
洗浄処理	12,418	5,656	8,882	15,125	9,675	39,714	31,693	38,706	42,997			

土壌処理数量の推移 = 通期 =



弥富リサイクルセンター



愛知県弥富市

敷地面積 13,909m²

2017年3月操業開始

浄化处理施設・分別等処理施設



ブラウンフィールド再生事業



山梨県工場跡地

敷地面積 約50,000㎡

2016年3月取得

2018年2月南側売却済

土地所有者

当社（又はJV・SPC）

土地購入者

土壤汚染・地下水汚染
のある遊休地

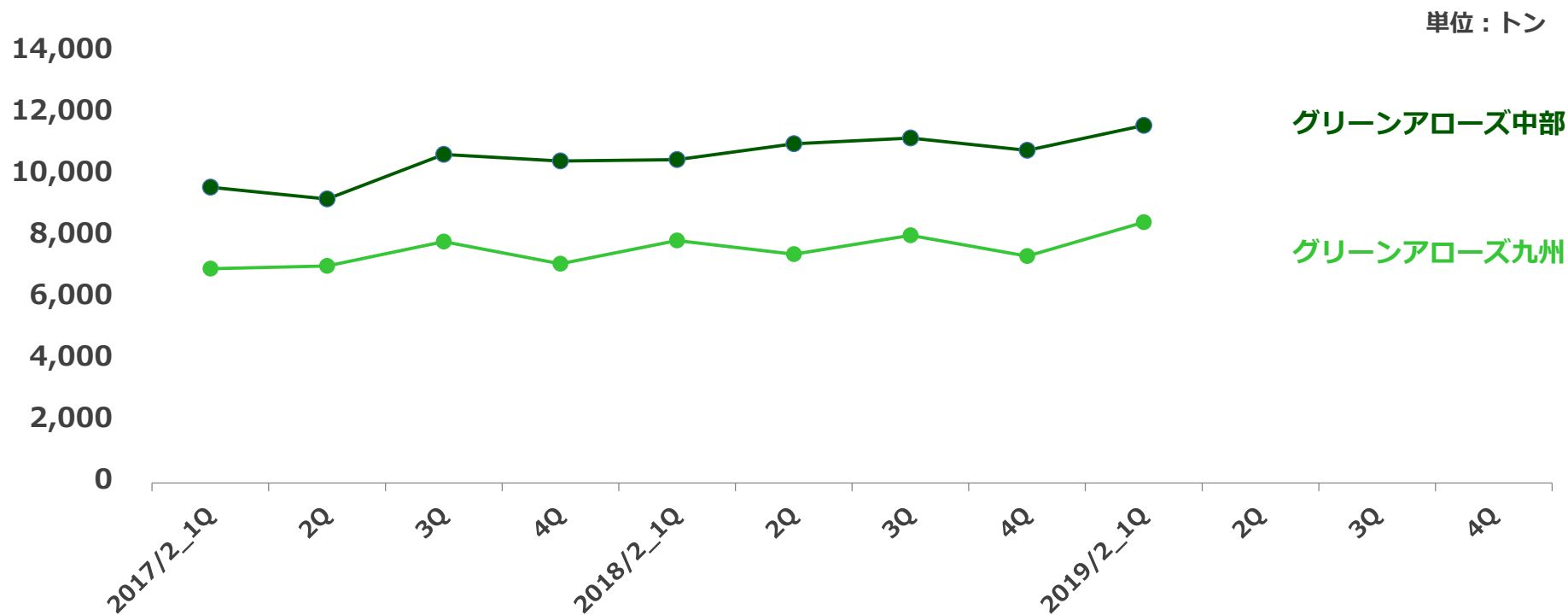
購入

土壤汚染調査・手続
土壤汚染対策工事
用途毎の開発工事

売却

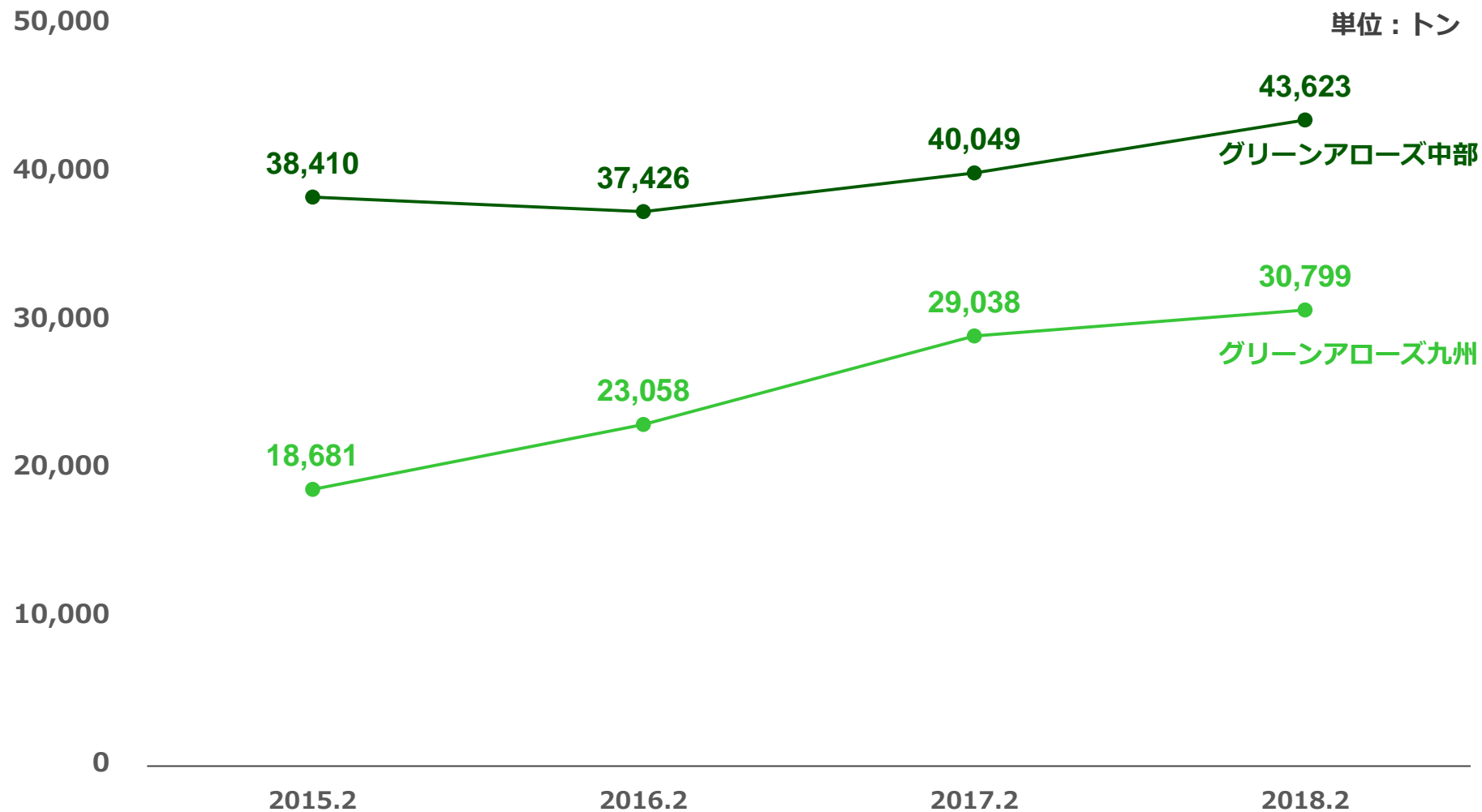
住居系開発用地
商業・物流用地
環境対応型福祉施設等

廃石膏ボード入荷量 = 四半期 =



(単位：t)	2017/ 1Q	2Q	3Q	4Q	2018/ 1Q	2Q	3Q	4Q	2019/ 1Q	2Q	3Q	4Q
GAC	9,630	9,243	10,693	10,483	10,523	11,041	11,233	10,826	11,635			
GAK	6,978	7,064	7,861	7,135	7,896	7,448	8,067	7,388	8,486			

廃石膏ボード入荷量 = 通期 =



廃石膏ボードリサイクル

●グリーンアローズ九州（中間処理）



福岡県糟屋郡宇美町

敷地面積 8,302㎡

2013年3月許可取得

●グリーンアローズ中部（中間処理）



愛知県東海市

敷地面積 7,041㎡

2009年3月許可取得

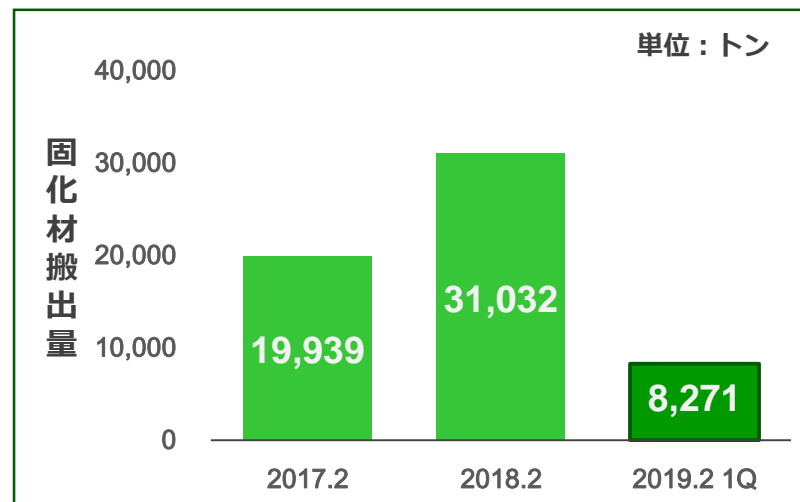
●グリーンアローズ中部名港工場（土壌固化材）



名古屋市港区

敷地面積 11,581㎡

2015年4月許可取得



<参考> 連結貸借対照表

(単位：百万円)	18/2期末	19/2期 1 Q末		
	金額	実績	前期末比 (金額/%)	前期末比 (%)
現金および預金	1,552	1,272	△280	81.9%
受取手形および売掛金	2,272	1,810	△462	79.6%
たな卸資産	1,500	1,654	153	110.2%
支払手形および買掛金	1,157	992	△164	85.7%
借入金	5,090	5,190	100	101.9%
純資産	11,806	11,930	124	101.0%
総資産	19,612	19,598	△14	99.9%
自己資本比率 (%)	58.2%	58.8%	0.6%	101.0%

ミッション・ビジョン

=ダイセキ環境ソリューションのミッション（使命）=

私たちは、日本を代表する

「環境リバリューストラクチャー」創造企業を目指します。

『社会的に不要になったり、負の環境影響を与えるものに対し、工夫を凝らし、再び価値をつける新しい仕組み（環境リバリューストラクチャー）』を創造して、環境課題を解決します。

=ダイセキ環境ソリューションの7年後の姿 「VISION・2025」=

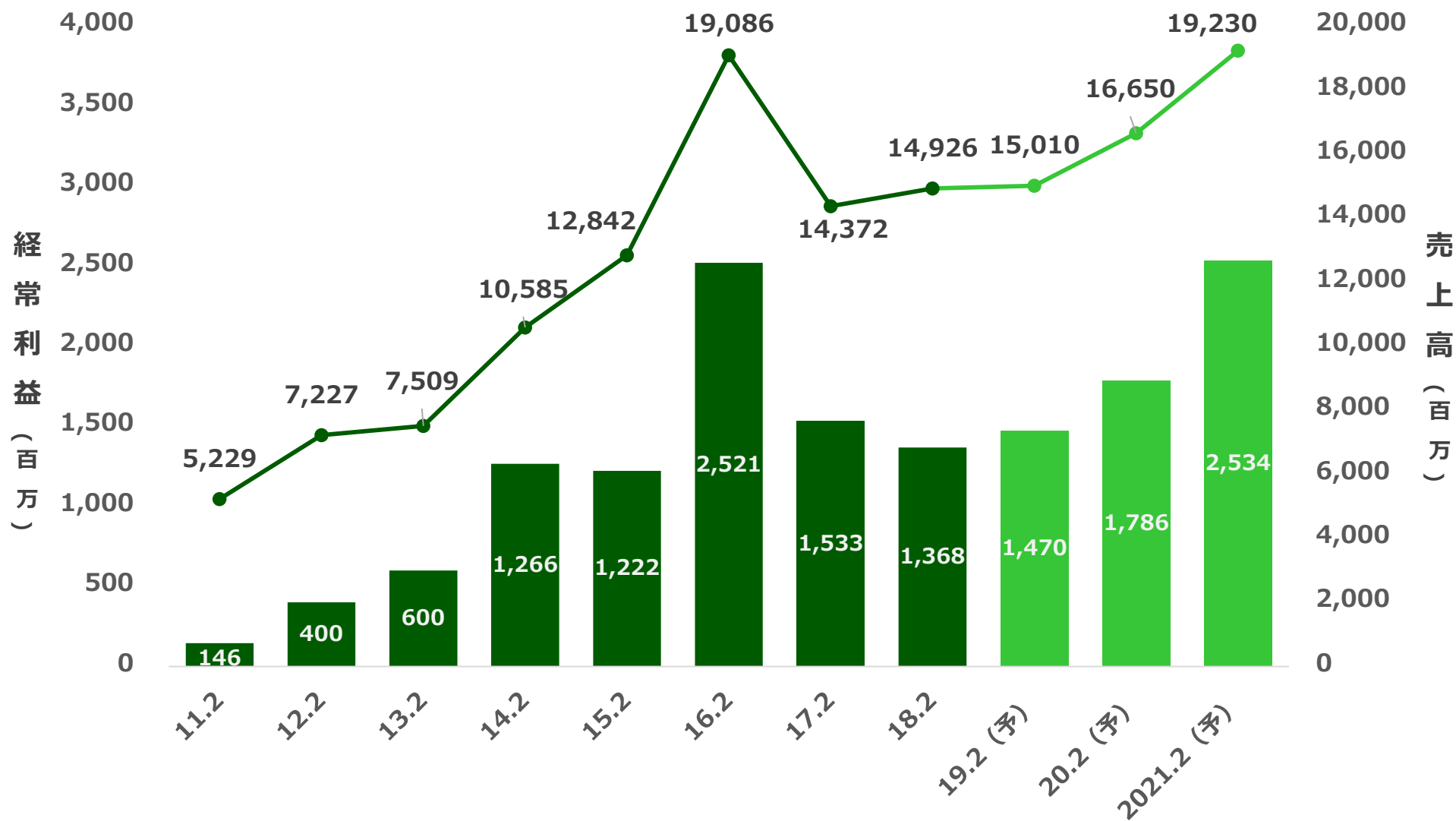
3つの目標を実現します。

1. 土壌ビジネスにおけるシェア拡大と市場創造
2. 新規環境ビジネスにおける開拓者の地位確立
3. 価値観を共有し、社員一丸で動ける組織の構築

中期計画

(単位：百万円)	2017年2月期		2018年2月期		2019年2月期 (予)		2020年2月期 (予)		2021年2月期 (予)	
	金額	前期比 (%)	金額	前期比 (%)	金額	前期比 (%)	金額	前期比 (%)	金額	前期比 (%)
売上高	14,372	75.3	14,926	103.8	15,010	100.5	16,650	110.9	19,230	115.5
売上総利益	2,696	74.8	2,659	98.6	2,870	108.0	3,281	114.3	4,063	123.8
営業利益	1,508	59.9	1,339	88.7	1,455	108.6	1,779	122.3	2,527	142.0
経常利益	1,533	61.0	1,368	89.2	1,470	107.4	1,786	121.5	2,534	141.9
売上高経常利益率%	10.6		9.1		9.8		10.7		13.2	
親会社株主に帰属する 当期純利益	954	62.9	994	98.9	911	96.5	1,119	122.9	1,625	145.2
ROE	9.5		8.6		7.5		8.4		10.9	

売上高・経常利益推移



株主還元についての考え方

- 株主価値の最大化を念頭に、持続的な成長を意識した経営判断を行います。
- 当面は、株主価値を高めるための投資機会が豊富な環境が続くと考えており、利益配分については、内部留保を厚くし、再投資させていただく方針です。
- 目標とする指標
株主資本利益率（ROE） 10%以上
- また、株式の流動性を高め、株主様の利便性向上に資する株式分割については、業績、株価等を総合的に判断しながら、適切に検討してまいります。

ESGについての考え方

●環境（E）

- ・ 環境リバリューストラクチャー創造企業として、循環型社会の構築、環境保全、地球温暖化防止を推進
- ・ 環境マネジメントシステム（ISO14001）にのっとり、環境への負荷を継続的に改善

●社会（S）

- ・ 働き方改革の推進：フレックスタイム制・時間有給休暇・モバイル化等の導入によるワークライフバランスの改善
- ・ 安全衛生の推進
- ・ 干潟・公園・構外の清掃活動、施設見学会等を通じた、地域社会との信頼関係構築
- ・ 災害廃棄物の処理対応

●ガバナンス（G）

- ・ コーポレートガバナンス：取締役会、監査等委員会、社外取締役、内部監査、会計監査人
- ・ コンプライアンス勉強会を毎月開催
- ・ 取締役向けRS報酬制度の導入